



古河電工グループが開発した「らくらくアルミケーブル」

古

河電工グループは、新型アルミケーブルの販売を201

8年に開始した。古河電気工業と古河電工産業電線が開発・製造を、SFC Cが販売をそれぞれ担当し、専用の端子類なども揃えて、太陽光発電所を含む様々な建設現場へ納入してきた。アルミケーブルとは、その名の通り、導体にアルミ

コスト削減や盗難防止に有効!? 古河電工のアルミケーブル

古河電工グループが太陽光発電所向けに提案するアルミケーブル。施工費の削減効果が期待できるほか、盗難対策にも有効らしい。

ニウムを用いたもの。従来の銅線ケーブルと比べ、同じサイズなら5割程、1サイズ大きくても3割程軽い。なかでも古河電工の製品は柔軟性があり、ケーブルの被覆を剥きやすいという。古河電工エネルギーインフラ統括部門産業電線・機器事業部門エネルギーバスケットキャスト課の桜井裕士主任は、「従来のアルミケ

ブルは、固くて曲げ難かった。そこで柔軟な架橋ポリエチレンを絶縁体に採用するなどして柔軟性を高め、課題を克服した」と話す。

アルミケーブルは、銅線ケーブルより導電率が劣る。導電率を維持するには1サイズ大きくしなければならぬが、それでも3割程軽く、柔軟性も維持できれば、太陽光発電所の施工効率が増し、省人化に繋げられるのだろう。

しかも、アルミケーブルは、価格面でも優位性があるように、SFC C理事営業副本部長の渡瀬茂アルミ拡販チーム長は、「銅線ケーブルと同等以下の価格で提供できる」という。加えて相場の変動が激しい銅建値に比べ、アルミ価格は安定しているため、製品価格の変動リスクは小さい。

太陽光発電所での採用事例もある。たとえば、山梨県内の1MW級の太陽光発電所に導入されており、桜井主任は、「アルミケーブルの採用が延線作業時間の短縮や人工の削減に繋がったとの評価をいただいた」という。

さらにアルミケーブルは、太陽光発電所の盗難対策に役立つようだ。事実、先の太陽光発電所では、ケーブルの盗難に遭い、その復旧工事で工期短縮とともに盗難防止効果を期待してケーブルをアルミケーブルに置き換えている。

郊外に建設されることが多い太陽光発電所では盗難被害が発生しており、特に高値で換金しやすい銅線ケーブルが盗まれやすい。だが、アルミは市場価格が安いというえ、中古品の流通量が少なく売却時に目立つこと

から盗難を抑止する効果があるらしい。なお、同発電所では、アルミケーブルを採用していることを説明する看板も掲げている。

コスト削減や盗難防止効果が期待できるアルミケーブル。20年3月には古河電工産業電線が平塚工場内に技能訓練センターを開設しており、同社の堀内文彦常務取締役営業本部長は、「実物比較や実習などでもできるので活用してほしい」という。今後、太陽光発電所で見られる機会が増えるだろう。



山梨県の太陽光発電所では盗難防止用に看板を掲げた



太陽光発電所での接続処理の様子